

寄宿舎の生活

「自分の思いを表現できた七夕まつり」

寮務主任 平野 大作

2学期が始まって1ヵ月が過ぎようとしています。寄宿舎では、現在19名の子ども達が在舎して元気に過ごしています。ちなみに本校の寄宿舎「若竹寮」今年で56年の歴史を有しており、寄宿舎の入り口に「若竹寮」の看板がありますのでご覧いただくとありがたいです。

さて、7月5日に「プレ七夕まつり」、7月10日「七夕まつり」が寄宿舎で行われました。これまでの「七夕まつり」のねらいと内容を見直して、舎生が今まで以上に楽しめることを大事にしながら実施されました。5日に行われた「プレ七夕まつり」では、「天の川」、「ひこぼし」「おりひめ」のペープサートの動きを見て楽しみ、短冊を木につけて願いを託しました。10日に行われた「七夕まつり」では、「ゲーム大会」と「盆踊り」が行われました。豪華な景品を手にするために七夕ボウリングで倒れたピンを見て一喜一憂したり、「何が出るかな？何が当たるかな？」ゲームでは、一人一回サイコロを転がして豪華なメダルを手にしたりと、まさにメダルラッシュでした。

最後の盆踊りでは、寄宿舎職員も含めて全員で輪になって太鼓の音色と踊りで盛り上がりました。舎生一人ひとりが輝き、自分の思いを表現できた一瞬でした。

「社会の中で生きる力」

寄宿舎の一日は「ただいま」「おかえり」で始まり、舎生が寄宿舎に戻ると職員は笑顔で温かく迎えています。

寄宿舎では、朝と夕方の食事、入浴（火曜日と木曜日の週2回）、各種行事やスポーツレク、避難訓練、余暇活動としてテレビやDVDの視聴や散歩、校外活動としてゴミ拾い（今年度から行われている地域貢献の活動）など一般の多くのご家庭や地域で行われていることに取り組んでいます。ご家庭と違う面では、寄宿舎生活は同学年や異学年の集団生活であり、社会のルールや思いやり、譲り合いといったことを学ぶことができます。また、保護者や学校との連携の面では、保護者懇談会や学舎懇談会で、家庭や学校、寄宿舎での様子についての交流や日常生活における配慮事項の確認、個別の指導計画の目標や手立てについて確認をさせていただきます。これらのこと確認をした上で、日々の取り組みに生かしています。この積み重ねが最終的に「社会の中で生きる力」を育てることに繋がっていくと考えています。

終わりになりますが、舎生の寄宿舎生活がこれからも充実したものになるために保護者と連携を深めながら、寄宿舎職員そして夜間の舎生を支えているパートさん（臨時寄宿舎指導員）や舎監と力を合わせていきますので、今後ともよろしくお願いします。